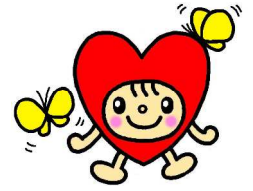




2018年

人権一口講座



リスペクト

サッカーワールドカップでは、大いに盛り上がったことと思います。日本代表は、残念ながらベスト16で敗退しましたが、日本対ベルギーは間違いなく名勝負でした。イタリアでは、この試合が、それまでに行われた試合のなかで最高視聴率を記録したといわれています。

試合内容もすばらしかったのですが、一番印象深かったのは、かつてフランス代表の名ストライカーで現在ベルギーコーチのティエリ・アンリ氏の行動でした。ホイッスルが鳴り、負けて打ちひしがれた日本代表の選手たちにアンリ氏は自軍のベンチから出てハーフウェーライン手前まで来て日本代表のことを見守り、やがて惜しみない拍手を長く日本代表選手に送り続けました。とぼとぼと50m以上の距離をうつむいたまま更衣室へ引き上げる日本代表の選手たちは、アンリ氏にほとんど気付いていないようでした。しかし、日本人の二人の選手は、アンリ氏の元へ歩み寄り、お互いに健闘をたたえ合い、慰められているようでした。ベルギーの選手も、日本選手に歩み寄り、肩をたたいたり、握手して起き上がれない選手を起こしたり、お互いがリスペクトしているのがよくわかりました。

その光景を見て二〇一一年ワールドカップ女子サッカーの日本対アメリカの決勝戦を思い出しました。その時は、優勝候補のアメリカに勝ち日本が世界一になることができました。試合終了後、座り込んで立ち上がれないアメリカ選手に、日本選手が歩み寄り、一緒にしゃがみこみ慰めている姿を思い出しました。その時アメリカ選手が言った言葉が「どうせ負けるなら日本でよかった。」だったそうです。きびしい勝負の世界ですが、お互いに尊敬し、いたわり合うことで信頼関係が強く生まれるみたいです。他人をけなしたり、悪口を言ったりしても何も生まれません。さまざまな人間関係や国同士の関係において、お互いに尊敬し、切磋琢磨し成長できる関係になることが理想だと思います。

最後に、日本選手が引き上げた後のロッカールームが綺麗に片付けられ、青い鶴の折り紙と一緒に白い紙が置いてあり、それにはスパシーバ(ロシア語で感謝の言葉)と書かれていて、その写真がネットで紹介され海外で称賛されているそうです。

今回の試合で、夢が一步近づいたように思います。日本の子どもたちが尊敬しあいい切磋琢磨し、将来ワールドカップで世界一になること、そして誇り高い日本人になることを願っています。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」八月号より)



短いメッセージ

はずかしくて 心の中で
すこしは君に

「ありがとう。」
とどくと いいな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー

託麻中学校 2年 森 柊馬さんの作品より